

穴戸ゼミナール

2015年度 成果報告



穴戸ゼミナールでは、「少子高齢化とまちづくり」をテーマにしています。今年度は「社会的排除」の問題について考え、現地に足を運んで、自分たちにできる解決策を実践しています。知識の獲得に加えて、問題を把握する力、課題を解決する力、異質な他者とコミュニケーションする力を向上させることをねらいとしています。

2015年度 FWゼミ成果報告会
穴戸ゼミナール

少子高齢化とまちづくり

フィールドワークで現状を把握する

岩原怜音(3年) 松林竜季(3年)
若藤藤真(3年) 田口桃子(3年)

買物弱者を支援する3つの方法

- 全国各地の買物弱者を支援するためには、
 - ①身近な場所に店を作る
 - ②家まで商品を届ける
 - ③家から人々が出かけやすくする
- 私たちは高齢者の「引き籠り防止」に着目して、③にねらいをつけた

買いもの支援バス

子どもの貧困

- 日本は子どもや子育て家庭に対する社会保障が薄い国
- 近年の家族の不安定化によって社会的に排除されやすい子ども
- 離婚率の上昇
- 母子家庭の相対的貧困率の高さ(世帯別世帯中位所得が約5万円)
- 児童虐待の認知件数の急増
- 6人に1人の子どもが貧困状態とも言われている

進学・就職の状況

中学校卒業後の進路

	高校等進学	専修学校等進学	就職	その他
児童養護施設児	94.8	1.8	2.1	1.2
全中高卒者	98.4	0.4	0.3	0.9

高等学校卒業後の進路

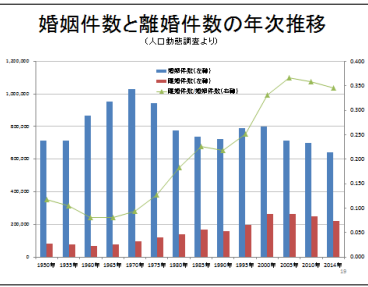
	大学等進学	専修学校等進学	就職	その他
児童養護施設児	12.3	10.3	69.8	7.6
全高卒者	53.2	23.7	16.9	6.3

高校進学率は、一般家庭と同程度になったが、大学進学率は、一般家庭と比較して、極端に低い。

穴戸ゼミの目的と活動概要

- 目的
 - 東大阪市をフィールドに、少子高齢化時代の社会的問題、特に「社会的排除」の問題の認識を深めること
 - 見出した問題に対して何らかの解決策を考え、実行すること
- 協力機関
 - 東大阪市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター
 - ボランティア団体「フレンド」
- 主な活動概要
 - ①寺子屋企画
 - ②ボランティア体験プログラム
 - ③児童養護施設での学習支援
 - ④買い物支援バスの運行

シニア東大阪に掲載



貧困の連鎖／社会階層の固定化

大人の貧困 → 子どもの貧困 → 大人の貧困 → 子どもの貧困

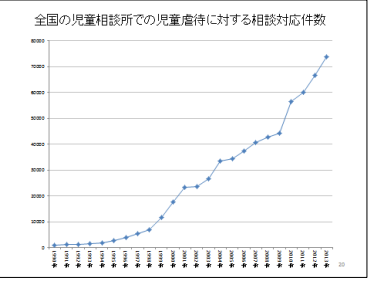
親世代・2世代・3世代…負のスパイラル

＝ 問題を抱えた家庭の社会的排除

買物弱者

- 住んでいる地域で日常の買い物をしたり、生活に必要なサービスを受けたりするのに困難を感じる人たちのこと
- 高齢の方を中心に、全国で約700万人いると推計(経済産業省)
- 半径500メートル以内に生鮮食品店がない場合に発生しやすい

買いもの支援バス



穴戸ゼミナールでできることは？

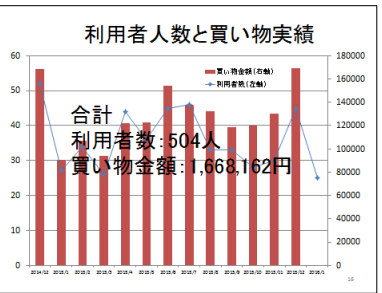
- 昨年度、寺子屋プロジェクトで得た経験や一般販売されている様々なテキストを基に、単元ごとに担当を分け、児童養護施設に募る子ども向けの算数の教材を作成
- 工夫した点
 - 「どこからわからなくなったかわかる」ような教材
 - 子どもたちと学生がコミュニケーションを取れ、勉強が楽しくなるような教材

高齢者の3K

「健康」＝(荷物を持って)移動する体力不足
「経済」＝交通機関の費用を賄いきれない
「孤独」＝核家族化、配偶者との死別

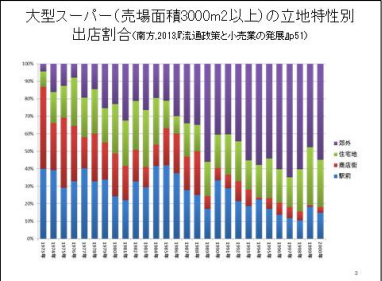
＋
 自家用車の運転ができない
 70歳の運転免許保有率⇒34%
(警察庁「運転免許統計」)

＋
 「健康」、「経済」の状況によれば
 免許を取得していても運転は困難



児童養護施設

- 保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、自立のための援助を行うことを目的とする施設(児童福祉法4条)
- 全国に600カ所、29,979人の児童が入所
- 入所理由の上位5つ
 - ① 母親の放任・怠惰 12.9%
 - ② 母親の精神疾患 11.7%
 - ③ 母親からの虐待 10.8%
 - ④ 父親からの虐待 7.3%
 - ⑤ 破産等の経済的理由 5.9%



実施して見出された課題

- メンバーの不足
(バスの運転手や買い物メイト)
* 買い物メイト＝お買い物や荷物運びのサポート
- 資金面での問題
(イオン東大阪店からの支援(売上の5%還元)は、運行に必要な年間運行経費40万円の2割程度)
* 他は補助金でまかなう
- 本当に必要の人に支援が行き届いていない
(このバスを利用された方の大半は元氣な老人)

学業の状況

児童養護施設に入学した児童の学習進捗状況(児童養護施設)

学年	進捗率	平均進捗率	遅れ進捗率	遅れ割合	遅れ人数
児童養護施設児	4.5%	20%	2.1%	69%	1,417
全児童	100%	6.2%	47.1%	46.7%	31,200
養育施設児	29.9%	1.3%	14.6%	84%	4,447
全児童	100%	4.4%	55.5%	51.1%	35,300
児童養護施設児	15.2%	3.4%	41.3%	61%	6,016
全児童	100%	3.4%	64%	60%	42,000
母子施設児	100%	2.1%	28.1%	69.8%	4,718
全児童	100%	2.1%	42.4%	60%	4,000
父子施設児	62%	1%	35.7%	64.3%	171
全児童	100%	4.4%	47.7%	43.3%	20,280

- 児童養護施設に入所している児童の28.2%が学業面での遅れがある。
- 中学生以上の児童には塾や授業の遅れを取り戻すための費用の支援が行われているが、小学生には支援がなく施設の職員が学習補助をしている状況。

活動の今後の課題

- 児童養護施設の子どもたちが本当にしてくれるか？
- 本当に算数の得意アップにつながるか？
- どこからわからなくなったかをどのように探索するか？
- 学生の負担(どの程度)になるか？
- 学習補助動画の撮影は、どの部分に絞るか？
- 施設訪問時の支援の在り方は今年度のかたちでよいか？

一般家庭を対象とした難関山地域での寺子屋プロジェクトは、世代間交流を目的とした中身としてはどうか？

